

GLOSEUP

# 岩手力!

事業利用企業紹介

有限会社 青匠回路設計

過酷な条件下に線を張りめぐらすパターン設計。回路図を読み取り、要求基準を満たす対応能力が求められる。

日々進化する電子機器を舞台裏から支えるパターン設計。青匠回路設計は客先の業務分野を固定化せず、間口を広げて多様な技術ノウハウを蓄積する独自の戦略をとる。田園の中の設計工房から技術世界一を目指して夢を膨らませます。



田園の中のオフィス。客先とのやりとりはほとんどインターネットで行う

## 電子基板の毛細血管

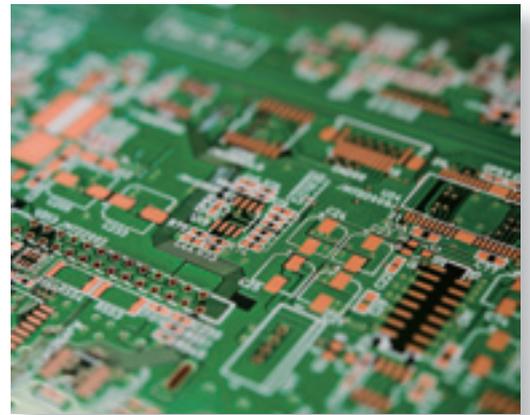
基板に張りめぐらされた毛細血管のような回路。基板上の部品を正しく、効率的に、持続的に作動させるための命綱だ。

客先から送られてきた仕様書、回路図を読みとり、部品データを脇に置いて、その要求を満たすべく、CADを使って1本1本を結線していく。その数1,000本、2,000本という世界。しかも要求は年々高度化、小型化し、短納期化もしている。結線すればいいというだけでなく、回路図の中にはいろいろな情報が盛り込まれており、信号レベルの低い部分、大電力の流れる部分、ノイズの影響を受けやすい部分等々を瞬時に判断し、その機器ごとの機能を100%発揮するように考慮しなくてはならない。「納期が迫ったりすると線が夢に出てきます。あと何本、とか…」

それでもCADができて作業は楽になった。それ以前は電卓をたたいて線の行方をはじき出していた。CADは最初に条件をインプットしておけば計算をしてエラーチェックもしてくれるから基本的なミスは出ない。ということは、CADと専用ソフトがあれば誰にでも一通りのことはできるというわけだが、前述のとおり、大事なことは回路図の読み取りと、それに対応する判断ができるかどうか。

「それができるところがうちの強みだと思います。社員一人ひとりにもできるだけ一

貫生産的に設計できるように仕事をしてもらっています。なかなか時間のかかることですが…」



基板の毛細血管「回路」。部品と部品の間を数千本の線で結ぶ



CADは設計者の労力を激減させてくれた

## 事業の間口を広く

「経営なんか好きじゃない。いいものをつくりたい」

言葉に技術者気質がほとぼしる細川社長。農家の長男に生まれたが、中学生の頃から電気が好きになって「帰って来ること」を条件に上京、専門学校で電気を学んだ。

卒業後、基板設計の道に進み10数年間、技術を蓄えて平成3年独立開業。平成5年には、1級プリント配線板製造技能士資格を取得。平成12年、田園風景の広がる実家の脇に事務所棟を建て、現在、細川社長を初めとする社内5人体制。ほかに社外にオペレーター、サーバー管理の担当スタッフがいる。

「大きな会社1社の下について固定化した仕事をしていれば経営は安定すると思いますが、それでは飽き足らない。やはりいろいろな業種のお客様と幅広くお付き合いしていきたい。それによっていろいろな技術を覚えますから」

今、県内外に百社を超える取引先を持つ。「管理とか営業が嫌で独立したのに、会社を始めたら、結局それをやらざるを得なくなりました」

営業力の弱いところを補うために関係企業の交流の場などにできるだけ参加するようにしている。いわて産業振興センターとの出会いは開業当初、地域商工会の紹介によるもので、以来、先進地視察に参加したり、CAD 導入の際には近代化資金（現在の設備資金貸付）を活用したりと関係が深い。いわて産業振興センターの紹介で新たな取引に結びついたケースもある。

今年は開業以来初となる機械要素技術展に参加。社長を先頭に、従業員が交代でブースに立って会社説明を行った。



「閉鎖的な空間で仕事をしているので、こうした機会に出ていかないと世の中がわからないし、仕事にも結びつきません。初めてのことで、従業員にもいい刺激になったと思います」

## 技術世界一への夢

ホームページの会社案内に「社内行事 あっぴりレーマラソン参加」とある。自らの健康管理のために始めたジョギングがマラソンになり、社員を巻き込んでのりレーマラソンに発展した。

「42.195キロをみんなで走り繋ぐ。コミュニケーションのため、健康のため」

かつては「飲みニケーション」だったのを健康のためと切り替えた。渋谷参加（？）の声も無いではないが、過去3回参加し、昨年の記録は3時間36分01秒（職場部門）。

いつも従業員の将来のことが念頭にある。

「会社はどうでもいいんです。一人ひとりが最初から最後まで仕事ができるようになればいい。匠になろう。社名もそんな思いつからです。今後は、電気大好き人間でこの分野に関心を寄せてくれる若い人に入社、定着してもらい技術の継承と全社的な技量のレベルアップを図りたいと考えています」

自らは、東京・大田区の工場がNASAの仕事をしているように、いつか社員とともに「世界一」をつくり出したい、という夢を膨らませます。

## 企業概要

- 創業 1991年10月
- 代表取締役 細川 幸雄
- 資本金 300万円
- 事業内容 プリント配線板パターン設計・プリント配線板製作・電子基板実装・回路図作成
- 従業員数 5名
- 所在地 矢巾町大字土橋第6地割54番地  
電話 019-697-8608

URL  
<http://www.sei-pwb.com/>

今月の表紙/写真左から、長田巧さん、似内直宏さん、十門地真澄さん、細川富子さん。回路設計の仕事はほとんどCADとのやりとり。おのずと無口になる。静の中で、数千本の線を引き持久戦がくり広げられる。大きなプロジェクトのときは分業するが、基本的には一人で一貫生産できる体制で、「最近取引先から個人指名で仕事が入るようになりました」と細川社長。

細川 幸雄代表取締役

1953年生まれ。技術屋を自認するが、自然環境への意識が強いのは農業というバックボーンがあるから。「開発という名のもとに自然を壊している。このままでいいのか。新しいものを求めるだけでいいだろうか」。自らの事業も、将来はより人間の暮らしに寄り添ったものにしていきたいと考えている。時期になれば休日に田植え、稲刈りに出る。毎朝6時からのジョギングは夫唱婦隨。全国各地のマラソン大会に年間5、6回出場するという。



完走証



あっぴりレーマラソンで社員の心を結ぶ

